

副鼻腔炎



副鼻腔炎とは、副鼻腔の粘膜にウイルスや細菌が感染することなどによって炎症が起こり、鼻づまりや鼻水、咳、頭痛など、さまざまな症状が現れる病気で「蓄膿（ちくのう）症」とも呼ばれます。副鼻腔炎は、発症から1ヶ月以内である「急性副鼻腔炎」と3ヶ月以上症状が続く「慢性副鼻腔炎」に分けられます。

	急性副鼻腔炎	慢性副鼻腔炎
症状	<ul style="list-style-type: none"> 鼻水が粘っこい、頬の痛み、発熱などの急性炎症症状 鼻詰まり、鼻水、鼻水が増えて鼻の奥にたまる、粘っこい鼻水が喉に落ちる、咳などの風邪症状 	<ul style="list-style-type: none"> 鼻詰まり、鼻水、鼻水が増えて鼻の奥にたまる、粘っこい鼻水が喉に落ちる、咳などの症状が3ヶ月以上持続 頭痛や頭重感などの随伴症状
主な原因	ウイルスや細菌が副鼻腔に感染し、炎症反応を起こすことで、様々な症状が出てきます。これらの症状が続くと、副鼻腔に膿が溜まり、炎症を引き起こします。	慢性期に入ると、膿が原因になってきます。膿が排出できず、炎症が悪化し、更に膿が溜まり慢性化していきます。

一般的な治療

重症度により異なりますが、一般的には鼻汁吸引し、必要に応じて抗菌薬の投与となります。軽症例では、耐性菌の増加を防ぐ意味でも、鼻汁吸引のみで抗菌薬は使用せずに経過観察となる場合もあるようです。

こんな症状はありませんか？

- 鼻づまり
- ドロっとした匂いのする鼻汁
- 頬・鼻周囲・額の痛み
- 顔やまぶたの腫れ
- 発熱
- 匂いがしない

上記のような症状が続く場合は要注意です。耳鼻咽喉科を受診してください。

日常生活において

鼻を思い切りかまないようにしましょう

鼻を思い切りかむと、中耳炎を引き起こすことがあります。鼻が詰まっても思い切りかまないようにしましょう。

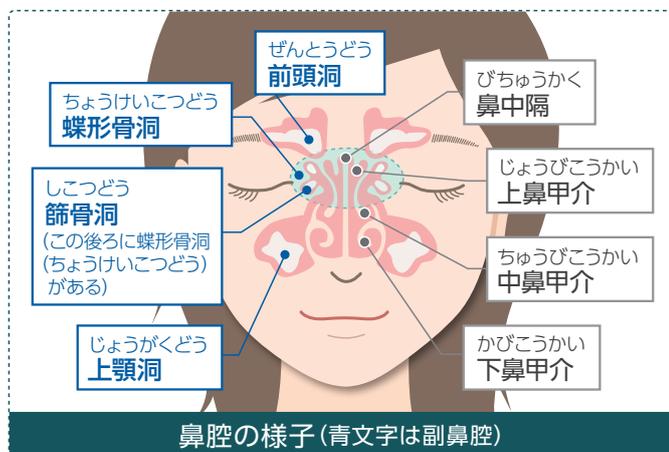
風邪をこじらせないように注意しましょう

風邪をこじらせて副鼻腔炎になる場合も多いようです。風邪をひいたら無理をしないようにしましょう。

虫歯や歯周病とも関連

虫歯や歯周病の炎症が上顎洞にまで伝わり、「歯性上顎洞炎」という副鼻腔炎を引き起こすこともあります。治療していない方は放置せず早めに受診しましょう。

市販の薬を使用しても症状が続く場合は受診しましょう。



鼻腔の様子(青文字は副鼻腔)

【参考文献】

- (1) 日本耳鼻咽喉科学会 http://www.jibika.or.jp/citizens/daihyouteki2/hana_disease.html
- (2) 急性鼻副鼻腔炎診療ガイドライン (2013年追補版)
- (3) サワイ健康推進課 <https://www.sawai.co.jp/kenko-suishinka/theme/201810.html>